

インターバンクの声（2016年5月24日）

週明け東京市場のドル円は、110円台を保っていたのは朝方の短時間だけで、仲値公示後に一旦109円60銭台まで下げ、その後、110円近くまで戻すも、午後の途中からは109円台中盤の取引が中心となった。ロンドン、ニューヨーク市場では、もう一段ドル売りが進み、ニューヨーク市場終盤では109円割れもありそうな水準まで下げた。先週の4月の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨公表後は、6月か7月の利上げの可能性が高まったとしてドル買いが進みやすくなったが、週明けは再び円売りのポジションが膨らんだことへの警戒感もあってか円買い傾向に戻ってしまった。仙台の主要7ヵ国(G7)財務相・中央銀行総裁会議で、日本が主張する為替介入に対して米国から改めて牽制が入り、円買いリスクが減ったことも円を買い易くしたようだ。米地区連銀総裁の講演が続く今週だが、初日のウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁の「年内2-3回の利上げがほぼ適切」との発言にはもう少し反応しても良さそうだったのがほぼ無視された。やはり今週はドル売りで良いような気になってしまう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。